

Title	消化管出血を来した転移性空腸胞巣状軟部肉腫の1例
Author(s)	末吉, 健志; 鐘撞, 一郎; 西, 広和 他
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1996, 56(11), p. 712-714
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/14871
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

消化管出血を来した転移性空腸胞巣状軟部肉腫の1例

末吉 健志 鐘撞 一郎 西 広和
大城 潔 堀 晃

沖縄県立中部病院放射線科

A Case of Gastrointestinal Bleeding from Metastatic Alveolar Soft Part Sarcoma of the Jejunum

Takeshi Sueyoshi, Ichirou Kanetuki,
Hirokazu Nishi, Kiyoshi Ohshiro,
and Akira Hori

Alveolar soft part sarcoma (ASPS) is a rare malignant tumor. It is often seen in the extremities of youngsters, and frequently metastasizes to the lung, brain, and bones. We experienced a case of ASPS which presented with gastrointestinal (GI) bleeding and was diagnosed as metastatic ASPS of the jejunum. We could not find in the literature a single case of ASPS which metastasized to the intestine and caused GI bleeding. We feel that it is important to consider the possibility that metastasis to the intestine can cause GI bleeding in a patient with a history of ASPS.

Research Code No. : 513.4

Key words : Alveolar soft part sarcoma, Metastasis,
Gastrointestinal bleeding

Received Oct. 5, 1995; revision accepted Dec. 19, 1995
Department of Radiology, Okinawa Chubu Hospital

はじめに

消化管出血で発症し、胞巣状軟部肉腫の空腸への転移と診断された症例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例：30歳，女性。主訴：黒色下痢便。
既往歴：18歳時，左大腿部胞巣状軟部肉腫切除術を施行され，以後特に問題なく経過していた。
現病歴：平成7年4月，黒色下痢便を来し当院救急室を受診，血圧低下も伴っており，上部消化管出血疑いで入院となった。
検査所見：HGB7.7g/dl，HCT23.3%と貧血を認めた。便潜血陽性。

画像所見

上部消化管内視鏡：食道から十二指下行脚まで明らかな異常は認められなかった。
出血シンチグラフィ：異常集積像は指摘されなかった。
血管造影(Fig.1(A,B))：上腸間膜動脈造影にて近位空腸動脈領域に動脈相から門脈相にわたり径1.5cmの腫瘍濃染像を認めた。
手術所見(Fig.2)：空腸平滑筋腫からの出血と診断し緊急手術が施行された。トライツ靭帯より55cm肛側の空腸粘膜下組織に径1.5cmの腫瘍を認めた。
病理所見(Fig.3,4)：組織学的には胞巣状構造を呈し，腫瘍細胞は好酸性で細胞質は広く，核小体は大きい。細胞質内には胞巣状軟部肉腫に特徴的であるジアスターゼ耐性PAS陽性の針状結晶が認められた。

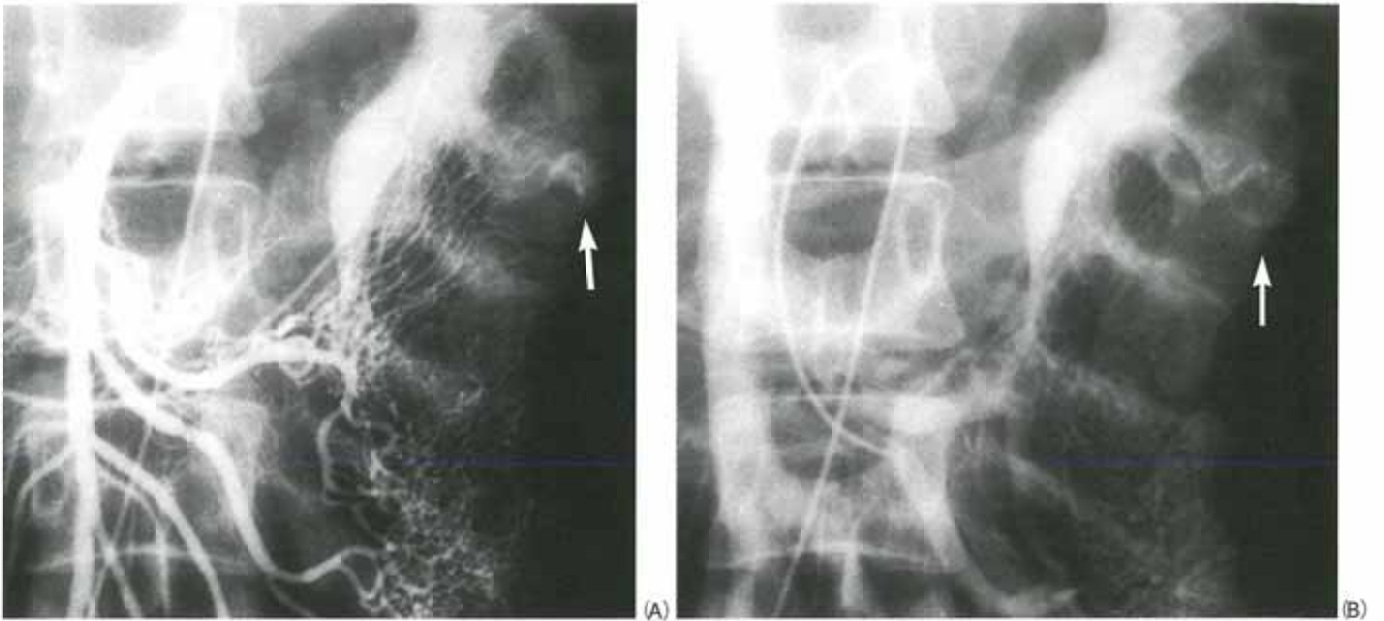


Fig.1 Tumor stain (arrow) is noted in the territory of the jejunal arteries. (A) arterial phase (B) portal phase

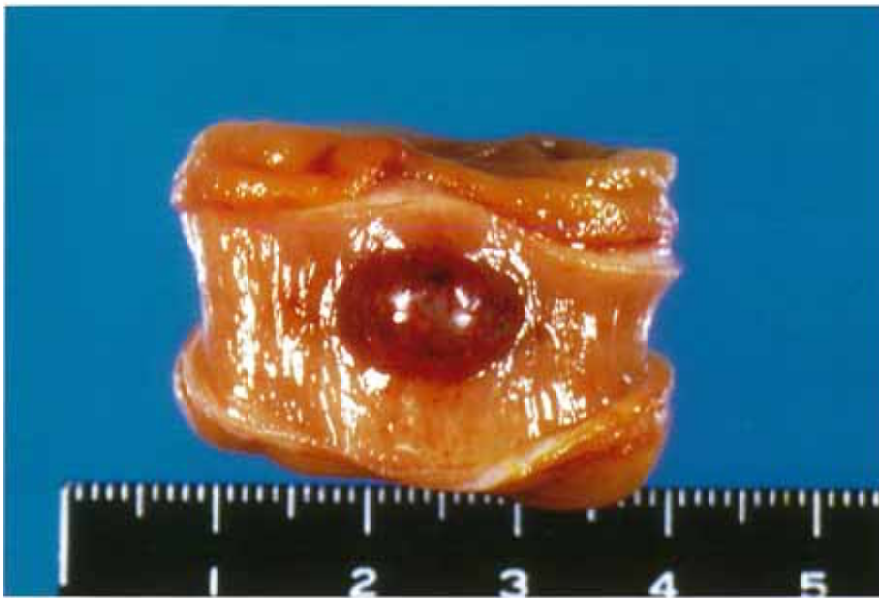


Fig.2 A dark reddish tumor is demonstrated in the jejunal submucosa.

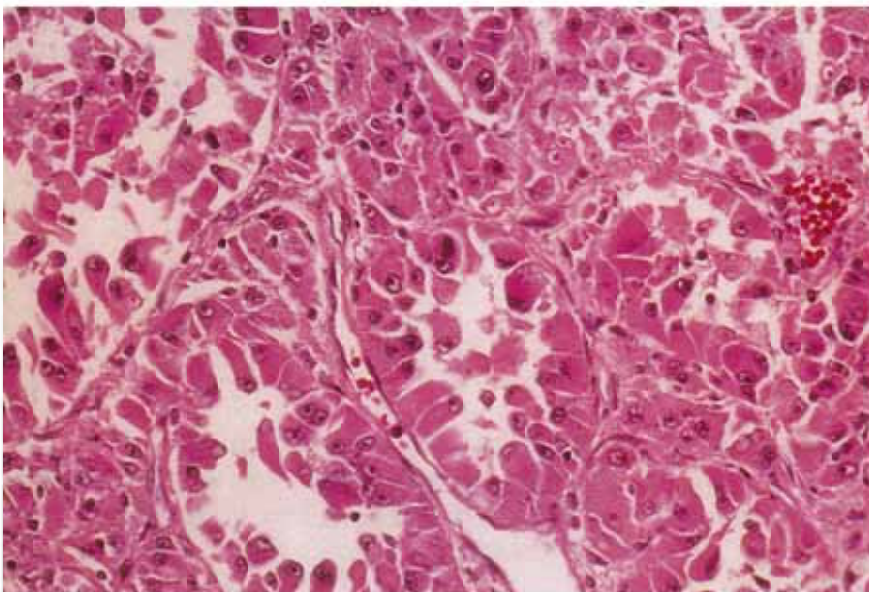


Fig.3 A photomicrograph of ASPS shows alveolus-like arrangement of the tumor cells. (H&E)

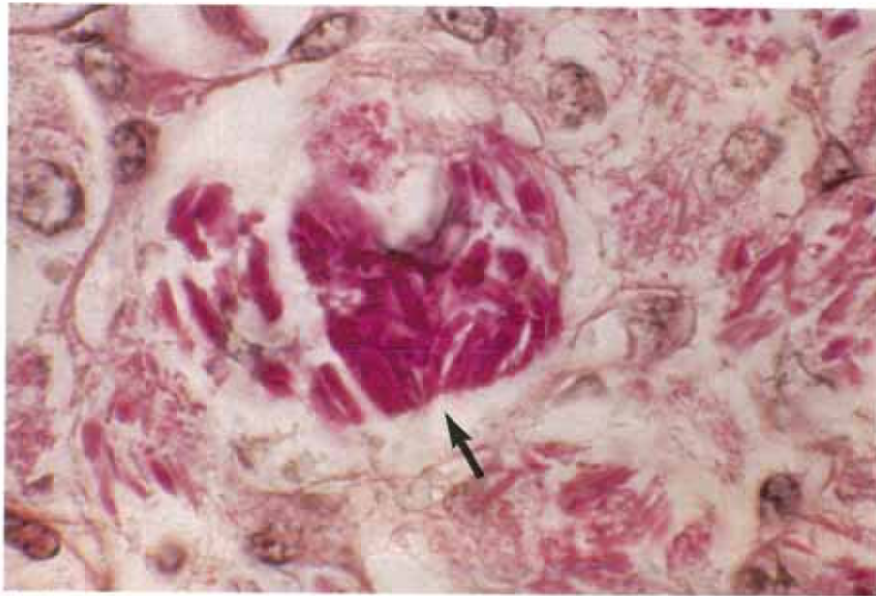


Fig.4
PAS-positive, diastase-resistant crystals (arrow) are visualized in the tumor cells. (PAS after diastase)

経 過

手術後、黒色下痢便は消失した。現在、外来通院中であるが、黒色下痢便の再発はみられていない。なお、今回入院時の胸部単純写真にて左肺の腫瘍陰影が認められ、切除術の結果、転移と確認された。

考 察

胞巣状軟部肉腫は1952年、Christophersonらによって初めて報告¹⁾された組織由来不明の悪性腫瘍である。臨床的には若年者の四肢に好発し、その成長は緩やかだが高率に肺、骨、脳へと転移する。今回、われわれが経験した小腸転移は原発から12年経過しているが、32年経過後に転移を来した報告例もある²⁾。画像所見としては、血管造影上の特徴について、森山らが血管増生、腫瘍浸染、早期静脈灌流など

の富血行性の所見が認められるとしている³⁾。転移巣に関しては増田らが肺転移巣について報告⁴⁾しており、森山らによる原発巣の所見と類似している。われわれの症例では腫瘍浸染を認めたものの、血管増生や早期静脈灌流は観察されなかった。これには腫瘍血管の選択的造影を行えなかったことも影響したと思われる。

一般的に富血行性の腫瘍は出血の原因となり得る。胞巣状軟部肉腫の転移巣についても、肺転移を原因とする咯血や、生検時の多量出血の報告がみられる。したがって、これまで報告例はないものの、消化管に転移した場合にも出血源と成り得ることが充分予想され、実際に今回経験した症例では、胞巣状軟部肉腫の空腸転移巣から多量の出血が生じた。胞巣状軟部肉腫の既往を持つ患者が消化管出血を発症した場合、消化管転移の可能性を考慮して診断を進めることが重要であると思われた。

文 献

- 1) Christopherson WM, Foote FW Jr, Stewart EW: Alveolar Soft Part Sarcoma. *Cancer* 5: 100-111, 1952
- 2) Auerbach HE, Brooks JJ: Alveolar Soft Part Sarcoma. *Cancer* 60: 66-73, 1987
- 3) 森山高明, 中條政敬, 島田受理夫, 他: 胞巣状軟部肉腫の血

- 管造影所見. *日本医放会誌* 52: 594-599, 1922
- 4) 増田秀雄, 尾形利郎, 菊地敬一, 他: Alveolar Soft Part Sarcoma肺転移の血管造影所見について. *癌と化学療法* 15: 2497-2500, 1988